

No.3
2026 秋号
TAKE FREE

米子歴史通信

米子城跡国史跡指定20周年・三の丸広場オープン記念特集展

最強の城 米子城の歴史

米子市立山陰歴史館

平成18(2006)年に米子城跡が国史跡指定されてから20周年となる令和8(2026)年10月18日に三の丸広場がオープン（史跡整備）するのを記念して、現時点での文献資料・考古資料などからアプローチした米子城の歴史を紹介します。

山陰歴史館

4 おやすみイベント紹介

5 米子市文化財団
フェスティバル

資料紹介

6 米子指定有形文化財
米子城鯨の謎の穴

7 上淀白鳳の丘展示館
イベント紹介

8 表紙の文化財・編集後記

米子城跡三の丸広場（画像提供：米子市）

最強の城 米子城の歴史

天正19(1591)年、出雲国東部、伯耆国西部、隠岐国などを豊臣秀吉より賜った吉川広家により米子城の築城が開始されました。関ヶ原の戦いで西軍についた毛利家の転封に伴い広家が岩国に移った時、城は未完成であったと言われています。駿府より伯耆一国の領主として入国した中村一忠は、戦国時代以来西伯耆の中核城郭であった尾高城に入り、慶長7(1602)年に米子城を完成・入城しました。総石垣に五重の天守と四重櫓（副天守）を有し、中海の海水を引き込んだ内堀・外堀を備えた米子城は、まさに山陰随一の名城でした。中村氏が一代で改易となると、美濃国黒野から加藤貞泰が入城して城下町を整備しますが、元和3(1617)年には再び伊予国大洲へ転封となります。その後、池田光政が因幡・伯耆二国の太守として鳥取城を居城とすると、米子城には一族の池田由之・由成が入ります。さらに寛永9(1632)年、岡山池田家と鳥取池田家が入替えられると、米子城は家老の荒尾氏に預けられ、幕末まで12代にわたって「自分手政治」といわれる荒尾氏による米子の支配が続きます。明治時代になると新政府に引き渡された米子城の天守をはじめとする建物は取り壊され、堀は埋め戻され、石垣のみが残りました。米子城跡は市の史跡指定を経て、平成18(2006)年に本丸・二の丸・内膳丸と三の丸の一部（令和3年追加指定）が国史跡となっており、本丸から見る絶景・ダイヤモンド大山・オレンジロード、そして奇石「鯛石」など次々と話題を提供し、最強の城として親しまれています。

令和6(2024)年から整備に着手した国史跡米子城跡・三の丸広場の完成を記念して、本特集展では「最強の城・米子城の歴史」と魅力をご紹介します。

10月4日 [日]

▶10月31日 [土]

観覧無料



米子城 四重櫓
(山陰歴史館所蔵)

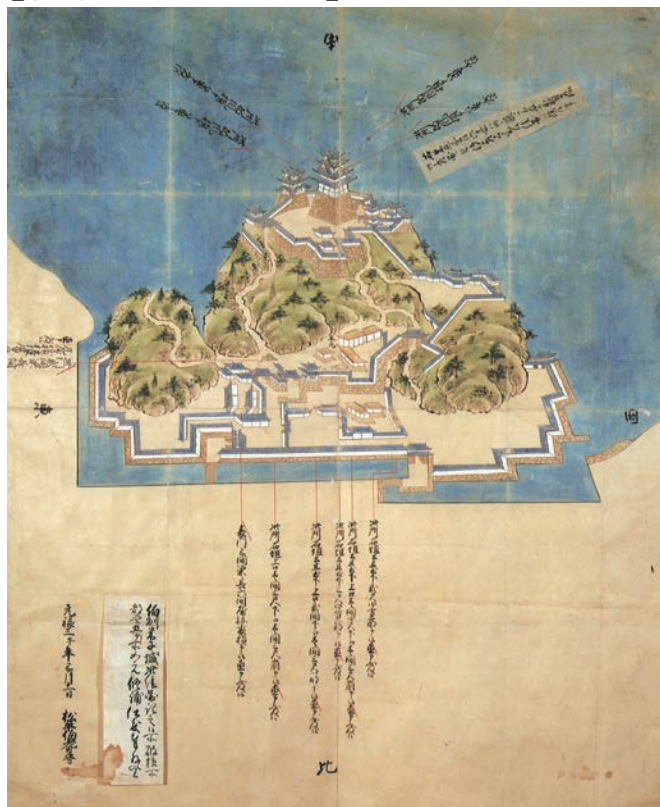
特集展

最強の城 米子城の歴史

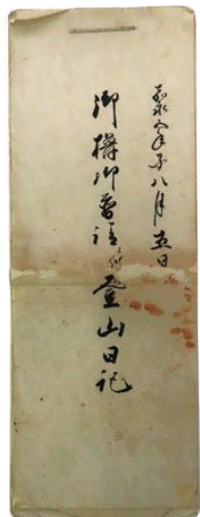
- 第1巻 尾高城～米子城以前～
- 第2巻 米子城築城
- 第3巻 米子城下町
- 第4巻 三の丸の発掘調査
- 第5巻 幕末期～米子城廃城
- 第6巻 三の丸広場の整備
- 第7巻 絶景と鯛石（写真展）

□米子城文庫（米子城関係図書）

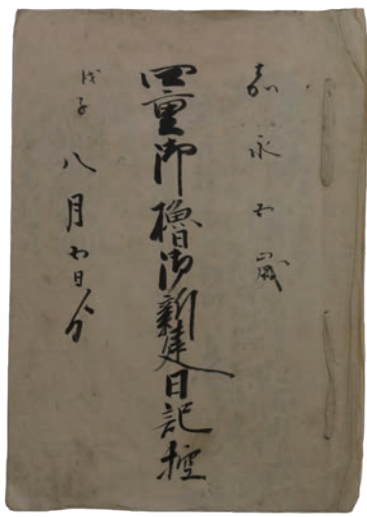
【特集展のみどころ】



米子城石垣御修復御願絵図（元禄3年）
（鳥取県立博物館所蔵）



御櫓御普請付登山日記
（山陰歴史館所蔵）



四重御櫓御新建日記控（嘉永6年）
（松原伸治所蔵）

本展では、令和6(2024)年に米子城に次いで国史跡となった、戦国最強の城「尾高城」を米子城の前身と位置づけ、米子城築城から明治時代の廃城までを文献資料と考古資料から説き起こします。城は天下泰平の江戸時代であっても軍事機密であり、記録は藩政資料として納められていますが、実態はよくわかっていません。池田光仲の因伯32万石入府以来、筆頭家老荒尾家(1万5千石)に預けられた米子城では、老朽化や風雨災害によりたびたび修理が行われています。今回は元禄期（第2巻）と嘉永期（第5巻）の修理記録に着目しました。特に江戸時代末期の嘉永5(1852)年から行われた^{しじゅうやぐら}四重櫓(副天守)の記録が重要です。四重櫓の改築は城下一の豪商鹿島家の出資と監督により行われたことが、鹿島家の^{おんやぐらごふ}「御櫓御普^{しんにつぎとざんにつき}請付登山日記」や米子城御瓦師松原家に伝わる^{しじゅう}「四重櫓^{やぐらごしんだてにつきひかえ}御新建日記控」などから経過がわかります。この時、四重櫓から降ろされた鯨は鹿島家に下賜（前頁）され、松原仁右衛門が試作したとされる鯨も現存しています。そして、八幡台郭の発掘調査からは、ここが四重櫓普請^{はちまんたいくるわ}の作業場であったことが判明しています。

明治12(1879)年に写真師山本良種が米子城天守を撮影しますが、その天守も取り壊され石垣だけが残りました。今回は、中村時代の米子城復元鳥瞰図や、天守復元CGなどで往時の山陰随一の名城の姿をご覧ください。

さらに、第7巻「絶景と鯛石」では米子城写真人・岡雄一による、米子城の魅力を余すことなく紹介する写真展も併せて開催します。

関連事業のご紹介

同時開催

湊山中学校総合的な学習の時間城山チーム

「植物で発見！米子城跡の新しい魅力」

地域の宝米子城山の植物展

「殿様の植物園」

特集展ギャラリートーク

(10月11・25・31日) 13:00～14:00 参加無料

米子城跡三の丸広場オープニングフェスタ

米子市文化財団フェスティバル（詳細は5p）

10月18日 米子城跡三の丸広場 10:00～15:00

〔国史跡米子城跡 ガイドウォーク〕

10月10日 14:00～16:00

〔米子城下町 ガイドウォーク〕

10月31日 14:00～16:00

各回 参加費 300円・要申込

申込
問合先

米子市埋蔵文化財センター
0859-26-0455



山陰歴史館 おやすみ イベント

山陰歴史館は、今後の施設改修に向け、館内の整理などをする必要があるため、11月1日から当面の間休館します。再開時期などは決定次第お知らせします。休館に際して、夜間を利用して「歴史館おやすみイベント」を開催します。ナイト・ミュージアムの魅力をご堪能ください。

第1弾 よなごまちジャズプロジェクト in ナイトミュージアム



築約100年の歴史館（博物館）を舞台にジャズの音色を響かせます。時を重ねた空間と今この瞬間に生まれる音を即興で紡ぐ音楽。古き建物に新たな「時間」が流れる、一夜限りのジャズライブをお楽しみください。夜の博物館をイメージしたジャズの名曲をお届けします。

日時 11月7日〔土〕 18:30～20:10〔開場 18:00〕
第1部 18:30～19:10 第2部 19:30～20:10

場所 米子市立山陰歴史館 1階玄関ロビー

席数 先着40席（申込不要・立ち見あり）

参加費 無料

第2弾 第13回米子歴史絵巻「米子怪談Ⅱ」

今年で13回目を迎える「米子歴史絵巻」では、米子市内の歴史スポットを会場に、様々な公演を開催してきました。昨年は西念寺（法勝寺町）を会場に、「米子怪談」を開催。幕末期の米子の怪談集『米府鬼話』に集録された話をメインに、怪談師神原リカとマリンバ奏者小川智也が共演しました。第1弾の盛況ぶりにより、第2弾の米子怪談を、近代建築「米子市役所旧館（米子市指定有形文化財）」で開催します。

日時 11月14日〔土〕 18:00～19:15〔開場 17:30〕

場所 米子市立山陰歴史館 1階展示室

定員 100席

チケット 一般500円、高校生以下無料要整理券

・9月26日（土）9:30～ 米子市立山陰歴史館・米子市公会堂にて販売開始 ※11月1日（日）以降のチケット取扱い窓口は米子市公会堂のみとします。詳細はお問合せください。

問合せ先 米子市立山陰歴史館（TEL：0859-22-7161）



EVENT INFORMATION

米子市文化財団 フェスティバル 2026

10/18 日 10:00 ~ 15:00

会場 米子城跡三の丸広場 駐車場

※駐車場は米子市役所駐車場をご利用ください。

米子市文化財団では、10月18日（日）に行われる、米子城三の丸広場の完成記念イベント「米子城跡三の丸広場オープニングフェスタ」にて、「米子市文化財団フェスティバル 2026」を開催します。

今回は、「サイバーカッセン」や「武将モルック」など、お城にちなんだイベントを多数用意しております。

よなぶん
フェス



米子城

スタンプ
ラリー

よなぶんフェスの各ブースを回ってスタンプを集めよう。記念品がもらえます。

米子市公会堂

Cyber KASSEN サイバーカッセン

みんなが主役！大人数参加型サイバー合戦！
※途中充電のために休憩を取る場合があります。



米子市児童文化センター

武将モルック

誰もが楽しめる！手軽なスポーツ「モルック」
武将のオリジナルルールでいざ合戦！
※12:00 ~ 13:00 は休憩

米子市美術館

戦国なりきり工作

新聞紙やカラフルなテープなどを使って、刀
やかぶとを作ってみよう！

米子市立山陰歴史館・米子市埋蔵文化財センター

「石垣つめる君」に挑戦！

ミニチュアの石垣積み
体験してみませんか？

定員：18組（当日予約制）
※所要時間は1組30分
協力：鳥取市教育委員会

石垣つめる君



たたら砂鉄 とり体験

磁石を使って砂に混じる砂鉄を取る体験してみよう。

※砂鉄はお持ち帰りできます。

米子市文化ホール

見たい、愛でタイ！米子城

- ・「絶景と鯛石」写真パネル展
- ・米子城 VR 体験
- ・天然もの鯛焼き屋台（1尾200円）
タイ焼きは数に限りがありますので、おひとり様
2匹までとさせていただきます。

米子市立図書館

移動図書館車がやってくる



米子城の本もあります！
本を楽しみながら、お城
クイズにも挑戦してみよ
う！

米子市淀江文化センター・上淀白鳳の丘展示館・ 米子市伯耆古代の丘公園

はにわ文様のうちわづくり

はにわ文様のスタンプをおしてオリジナルうちわを
作ってみよう！

※材料がなくなりしだい終了

知られざる 米子城発見ツアー

米子城跡を解説付きで歩いてみましょう。
今話題の「鯛石」にも会えるよ！

時間：1回目 10:30 ~ 11:30

2回目 13:30 ~ 14:30

定員：各回10名程度（予約不要）

集合場所：三の丸駐車場出入口付近

開始5分前までにお越しください。

見たい、愛でタイ！
米子城

問
合
先

（一財）米子市文化財団
0859-35-6411
毎週火曜日閉局

当日問合先
080-2923-6032

資料紹介

米子市指定有形文化財 米子城鯨の謎の穴



米子城の四重櫓に関わる鯨瓦は、5点が現存しています。このうちの2基は、幕末の修理以前に使用されていたもので、他の3基は新しく嘉永5(1852)年頃に作られたものです。

江戸時代の末期に米子城の四重櫓の傷みがひどくなったため、鳥取藩(荒尾家)の命令で米子の富豪、鹿島本家と分家が費用を肩代わりして、石

垣を含めた解体修理が行なわれました。その功労に対して、藩主から旧来の四重櫓に飾られていた二つの鯨が、両鹿島家に贈られました。

他の3点のうちの2点は、修理後の四重櫓に飾られていたもので、明治維新後に米子城の建物を解体する際に、義方小学校の校舎の屋根に飾るためにもらい受けたものです。この鯨は、現在も義方小学校で大切に保管されています。残りの1基は四重櫓が改築される前に作られた試作品と伝えられており、「嘉永五壬子月日 十代目 松原仁右衛門作之」と刻まれています。これらの鯨は、現存する5点すべてが米子市の有形文化財に指定されています。

山陰歴史館では、これら5点の鯨のうち、改築前に使用されていた鯨と、嘉永の改築時に試作された鯨の2点を収蔵しています。

今回、収蔵している鯨の調査を行った結果、米子城跡二の丸に移築されている「旧小原家長屋門」に保管されていた鯨の破片が、試作品の鯨の欠損して行方が分からなくなっていた部材であることが判明しました。

見つかったのは、鯨の尾びれと胸びれの破片です。表面には、過去の補修で使用された石こうやモルタルが厚く付着しています。このうち、尾びれの破片には、先端部に直径3ミリほどの丸い穴が4つ確認され、元は尾びれに6つの穴があったことが分かりました。また、この鯨には、背びれと尻びれにも無数の穴が開けられていることが分かっていたのですが、何のために開けられた穴なのか、その理由や用途は不明でした。

この穴の用途について検討した結果、「殺生釘^{せつしょうくぎ}」と呼ばれる鳥よけの細長い金属製の棒を鯨に突き刺した穴であることがわかりました。

殺生釘は、古代寺院の金堂などの屋根を飾る「鴟尾^{しび}」に付けられた「拒鵲^{きょじゃく}」がその起源と考えられています。

殺生釘については、鬼瓦^{とりぶすま}や鳥衾瓦などに使用される事例が、全国で100例程度確認されていますが、城郭の鯨に採用されているのは、名古屋城で確認されているのみです。

幕末に作られた米子城の鯨に殺生釘があるのは大きな謎ですが、義方小学校で保管されている鯨の尾びれには、穴が開けられていないことから、試作品の段階で想定されていた殺生釘を使用する案は、実際には採用されなかったと推測されます。

上淀白鳳の丘展示館 10-11月

イベントスケジュール

美水の郷
秋麗ウォーク 11月15日[日] 9:00～11:00

淀江コース

ゆっくりじっくり 淀江のまち 今津を学ぶ

集合	淀江漁港（米子市淀江町今津）
コース	淀江漁港 → 国指定史跡鳥取藩台場跡・淀江台場跡 ・旧養良農業高等学校跡 → 金毘羅大権現常夜灯 → 今津神社 → 松南系墓地 → 海岸沿い → 新渠記碑 → 淀江漁港（約4キロ）
講師	田中 秀明氏（米子市文化財保護審議会委員）
定員	20名



宇田川コース

天の真名井の名水と宇田川平野の遺跡を楽しむ

集合	宇田川公民館（米子市淀江町中西尾 466）
コース	宇田川公民館 → 富繁サイノカミ → 宇田川神社 → 中西尾サイノカミ → 天の真名井・水車の米つ き風景見学 → 上津守神社 → 湯口の泉 → 角田遺跡 → 宇田川公民館（約6キロ）
講師	長谷川 晋也氏（鳥取県文化財保護指導委員）
定員	30名

参加費	各コース 800 円
参加特典	宇田川米の水車精米 よなごの水（ペットボトル 1 本） J-CoinPay ポイント（300 円分） 上淀白鳳の丘展示館招待券
主催	（一財）米子市文化財団〔米子市伯耆古代の丘公園 ・上淀白鳳の丘展示館〕
共催	米子市
協力	松南 尚人・天の真名井水車管理組合

企画展 まるごと！上淀廃寺跡 9月19日[土]～11月22日[日]

企画展関連事業

上淀廃寺と伯耆の古代寺院を巡る

米子市立山陰歴史館 中原館長と行く！

上淀廃寺跡と同時代に建立された伯耆の古代寺院をバスで巡ります。

10月23日[金] 8:30～17:00

集合場所	米子市役所 東玄関前（8:20 集合）または 日吉神社駐車場（8:50 集合）
見学コース	県内唯一の特別史跡 斎尾廃寺跡 / 湯梨浜町羽合歴史民俗資料館 / 倉吉博物館 / 県内最古級の古代寺院 国史跡大御堂廃寺跡 他
定員	20 名程度（8/30 9:30～電話にて申込・先着順）
★昼食代・観覧料実費必要	〔2200 円程度〕
主催	米子市・（一財）米子市文化財団〔上淀白鳳の丘展示館〕
協力	琴浦町教育委員会・湯梨浜町羽合歴史民俗資料館・倉吉博物館・倉吉市経済観光部文化財課

第2弾 着て見て学ぶ仏の姿

如来の衣装を着て見て仏像について学ぶワークショップです。

11月1日[日] 13:30～15:00（13:00 開場）

会場	米子市淀江文化センター さなめホール イベントホール （鳥取県米子市淀江町西原 708-4）
講師	山崎 隆之氏（愛知県立芸術大学 名誉教授）
定員	50 名（10/10 9:30～電話にて申込・先着順）
参加費	200 円（資料代）

主催：米子市・米子市教育委員会・（一財）米子市文化財団〔上淀白鳳の丘展示館・米子市淀江文化センター〕



上淀廃寺復元如来

ねはんず
涅槃図と上淀廃寺金堂壁画－絵画で巡るお釈迦さまの物語－

上淀廃寺の金堂壁画と涅槃図を通して仏教絵画やその歴史を学びます。

11月14日[土] 13:30～15:00（13:00 開場）

会場	米子市淀江文化センターさなめホール 2 階 会議室 2
講師	前田 優美子氏（米子市美術館 学芸員）
定員	30 名（10/10 9:30～電話にて申込・先着順）
参加費	100 円（資料代）

主催：米子市・米子市教育委員会・（一財）米子市文化財団〔上淀白鳳の丘展示館・米子市淀江文化センター・米子市美術館〕

申込・問合せ先
上淀白鳳の丘展示館
TEL：0859-56-2271
FAX：0859-21-5480
Email：tenjikan@yonagobunka.net

米子城跡～三の丸広場の整備

国指定史跡（平成18年指定、令和3年追加指定）

米子城の三の丸跡には米子市営湊山球場がありました。その跡地を発掘したところ、内堀や米蔵跡が発見されました。この発見により、令和3(2021)年に国の史跡に追加指定、史跡整備され、このたび「三の丸広場」としてオープンしました。

三の丸の中央部には、年貢米の計量や品質検査を行う斗場があり、その周囲には米蔵が立ち並んでいました。発掘調査では、幅6m、長さ30mほどもある米蔵跡が見つかっています。江戸時代中期には最大で16棟の米蔵が建てられ、50,000俵(1俵は約60kg)を超える米が保管されていたとされています。

芝生広場の北東側には、三の丸を囲んでいた内堀の範囲を表現しています(表紙写真)。「米子城跡明細図」(1739)によると、内堀の幅は16間半(約33m)もあったようです。内堀には中海の海水を引き込んでおり、「海城米子城」の由来ともなっています。

江戸時代の城内道をイメージした園路を散策しながら、二の丸・本丸の石垣を一望できるのが三の丸広場の大きな見どころです。また、広場に接して米子城の魅力を発信する機能を備えた休憩処「三の丸番所」もご利用ください。



三の丸の米蔵表示と二の丸高石垣（画像提供：米子市）

編集後記

米子城跡三の丸の史跡公園(三の丸広場)が、いよいよ10月18日に完成します。

江戸時代に描かれた米子城の絵図を見ると、三の丸一帯には米蔵が建ち並んでいましたが、一方では、広大な空地が広がっていました。このたび竣工した三の丸の広大な芝生広場は、この江戸時代の絵図に描かれた景観と合致しています。この場所に立てば、米子城のスケールを実感することができるでしょう。

完成した三の丸広場が、米子市民に愛される史跡公園となることを願います。

No.3 米子歴史通信

米子市歴史系博物館広報誌

2026 秋号

令和8(2026)年10月1日発行

編集・発行 一般財団法人 米子市文化財団

[米子市立山陰歴史館・上淀白鳳の丘展示館・米子市埋蔵文化財センター・米子市福市考古資料館]

米子市立山陰歴史館

〒683-0822 鳥取県米子市中町20

TEL0859-22-7161

休館日：毎週火曜日（祝日の場合翌平日）、
年末年始

開館時間：9:30～18:00（入館は17:30まで）



上淀白鳳の丘展示館

〒689-3411 鳥取県米子市淀江町福岡977-2

TEL0859-56-2271

休館日：毎週火曜日（祝日の場合翌平日）、
年末年始

開館時間：9:30～18:00（入館は17:30まで）



米子市福市考古資料館

〒683-0011 鳥取県米子市福市461

TEL0859-26-3784

休館日：毎週火曜日（祝日の場合翌平日）、
祝日の翌日（土、日、祝の場合を除く）、
年末年始

開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）



米子市埋蔵文化財センター

〒683-0011 鳥取県米子市福市281

TEL0859-26-0455

休館日：土・日・祝日、年末年始

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）

